

## 第 20 回 2018 訪中団(成都・重慶・上海)概略報告

近畿本部日中科学技術交流委員会副委員長・2018 訪中団団長 掛田健二

沿海部から成都・重慶へIoT、AIや先端技術投資を積極化するとの新聞報道があり、訪中団で訪問実績の無い成都市、通過だけだった重慶市を、10月31日から11月6日、参加者7名で訪問した。飛行時間は関空ー上海3時間(復便2.5時間)、上海ー成都3.5時間、重慶ー上海2.3時間。成都ー重慶の高速鉄道1.5時間。

成都 Chéngdū 市は四川省の省都、中国重要都市中で過去から唯一都市名が変わらなかった都。歴史的遺産が豊富で数千年前の三星堆遺跡・金沙遺跡、世界遺産の2260年前の都江堰、三国志の蜀漢の都、杜甫草堂。食が豊富で麻婆豆腐など四川料理の本場。パンダ繁殖基地でチベットへの入り口。2000年から始まった西部大開発の拠点都市。人口1600万人、市区1150万人。地下鉄6路線。市の木は銀杏、花は木芙蓉。年平均気温20℃、年間降水量560mm。四川大学をはじめ13大学がある。四川盆地で偏西風が上空を通らないため曇りと小雨が多く、都市上空には霧がかかる。人柄はのんびりで交通信号を守る。中心街は金融・通信系の高層ビルが建ち並び、巨大ショッピングセンターもあり、上海に負けていない。暮らしやすいため省内外から人が集まり、工業団地に新鋭工場が建ち並び、知識産業化も進んでいる。シェアード自転車やスマホ決済は沿海部と遜色ない。

重慶 Chongqing 市は内陸部振興用に1997年四川省から別れた第4の直轄市、人口3022万人、市区900万人。地下鉄4本、モノレール2本(最初のモノレールは日本のODAで完成。故障が少なく好評)。岩山が多く坂の街、耕作地が少ない。中国3大火炉(重慶・武漢・南京)夏暑く湿度が高い、冬はかなり温暖。年平均22℃、年間降水量1100mm。日照時間が少ない代表的都市。揚子江に面した中心街は高層ビルが建ち並び、同期を取ったプロジェクトマッピングは上海の外灘に匹敵。重慶大学をはじめ18大学(内軍関連3)。主力産業は自動車産業、中国最大の軍事設備製造。一時は公害都市と言われた環境は改善されたが、成都市より空気が悪く、マスク着用が無難。政府は内陸部のIoT投資を重慶市に集中し、成都と並ぶ投資推進を再開中だが、産業構造転換には不足気味。

重慶大学都市建設&環境工程学院への訪問は、同学院卒業・京大修士・Hitz社員の聶氏へ依頼して実現した。学院から日本の廃棄物法令・焼却・リサイクルの紹介を依頼され、技術士会活動を含めて掛田が講義。質疑応答で焼却残渣・飛灰の再利用、エコタウン(中国で50カ所計画中)を討議、研究室見学があった。懇親昼食会を開催頂いた。学院の掲示板には、独・米・英への留学生の写真が学業成績(85以上)とともに掲載。日本の大学への留学は掲載無し。王副教授は九州大学に修士留学、九州大学と定期交流。他日に重慶地区の世界遺産「大足石刻(宝頂山石刻・北山石刻)」、重慶中国三峡博物館、重慶市科学技術館を見学した。

11月5日から10日開催の第1回中国国際輸入博覧会(CIIE 2018)上海は、米中貿易摩擦の影響もあり、上海市の今年最大のイベント。172カ国3600社、バイヤー40万人と公表。5日に周総書記が開会式出席、5、6日は振替休日。5-8日は商談専用。ホテル宿泊料は高騰。毎年開催する。我々は商談会不参加のため上海市博物館を見学。上海科技協会の歓迎昼食会に参加し、シルバー産業などの意見交換。来年9月中旬に企業同伴で香港・訪日団を派遣。近畿本部での招聘状発行・対応を要請され、了解した。毎年訪日団派遣の予定がある。来年の訪中団は11月に香港・広州・深圳を予定。上海市科技協会は香港工程師学会と親しいため、担当者の紹介を依頼、了解された。帰国後にデロイトーマツ幹部の講演で、「中国では交流の本気確認にMOUが必須」と言及があり、先人の上海市工程師学会とのMOU締結の効果を再確認した。(終)

